

2015年11月10日(第11回)
2015年度JLA中堅職員ステップアップ研修(1)
領域2区分B①

レファレンスツールの評価
西尾恵一(大阪府立中央図書館)

はじめに

図書館の資料は膨大/利用者のニーズは多様

- 図書館の資料:全分野(0門-9門)/大人向けから子ども向けまで/過去からの蓄積
- 利用者のニーズ:全分野(0門-9門)/大人から子どもまで/必要とする情報の精粗
- これを知ればすべて大丈夫、絶対評価を得られるレファレンスツールはない
- 日々研鑽を積んで、「よいレファレンスツールとは何か」を体得していくもの

本講義の目的:①日常業務の実体験の中から、よい「レファレンスツール」とは何か、に「気づく」

- ②それぞれの図書館でみなさんがレファレンスの際に工夫していることを引き出す
- ③その工夫をここにいる全員のものにして、レファレンス力の向上につなげていく

I レファレンスサービスとは

1 調査・研究への援助→調べものをする人たちを助ける仕事

- ①図書館資料の見つけ方の説明
- ②調査・研究にあたっての合理的手順の説明
- ③調査すべき書誌や参考図書類の具体名の提示
- ④それらの使用方法の解説
- ⑤利用可能な専門機関案内や協力貸出システムの説明

2 参考質問への回答→事実関係や文献探しの質問に資料を使って応える仕事

- ①所蔵・所在調査
- ②事実調査
- ③文献調査
- ④書誌事項調査
- ⑤より専門的な調査機関への照会・紹介(レフェラルサービス)

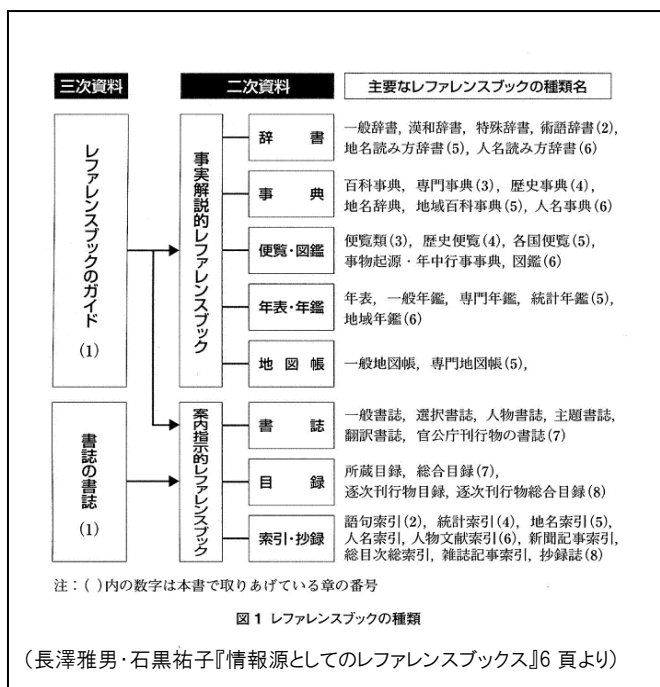
この2つに大別できるがそれぞれ独立しているのではなく、相互に輻輳して進められることが多い

II レファレンスツールの評価とは

1 レファレンスツールとは

レファレンスツール

＝膨大な図書館の資料や情報と多様な利用者のニーズを結びつけるツール(道具)。



① 参考図書：いわゆる辞典・事典類(事実解說的)および目録類(案内指示的)

② インターネット情報

③ 自館作成ツール：各館が必要に応じて作成した目録類やパスファインダー

↓
本日はこのうち、参考図書とインターネット情報について考える

2 評価の目的と基準

① 図書館におけるレファレンスツール(レファレンスブック)の評価の目的

→ 図書館において適切なレファレンス・コレクションを構成するため

↓

「評価に際しては、既存のコレクション中の個々の図書の情報的価値と利用者の要求とを十分に勘案しなければならない」(長澤雅男・石黒祐子『情報源としてのレファレンスブック：新版』15頁)

② レファレンスツールの評価の基準

膨大な図書館の資料や情報と多様な利用者のニーズを「効率よく効果的に」結びつけることができるかどうか。

↓

「効率よく効果的に」結びつけることのできるツールがよいレファレンスツール

Ⅲ 日頃の業務でよく使う参考図書およびインターネットサイト

1 事前課題の結果から(※支持率は受講生中何名の支持を得た参考図書またはサイトかを示しています)

◎日頃の業務でよく使う参考図書(上位5位:詳細は【参考資料1】)

順位	書名	出版者	得票数	支持率
1位	『日本国語大辞典』	小学館	12票	30.8%
2位	『総合百科事典ポプラディア』	ポプラ社	9票	23.1%
3位	『国史大辞典』	吉川弘文館	8票	20.5%
4位	『大漢和辞典』	大修館書店	7票	17.9%
	『世界大百科事典』	平凡社	7票	17.9%
	『広辞苑』	岩波書店	7票	17.9%
5位	『地域の百科事典』		5票	12.8%
	『理科年表』	丸善出版	5票	12.8%

(39名 全票数 105票のうち、回答なし1)

◎日頃の業務でよく使うインターネットサイト(上位5位:詳細は【参考資料2】)

順位	サイト名	アドレス	得票数	支持率
1位	国立国会図書館ホームページ		33票	66.7%
	レファレンス協同データベース	http://crd.ndl.go.jp/	12票	30.8%
	国立国会図書館サーチ	http://iss.ndl.go.jp/	9票	23.1%
	リサーチナビ	http://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/	5票	12.8%
	国立国会図書館	http://www.ndl.go.jp/	5票	12.8%
	国際子ども図書館	http://www.kodomo.go.jp/	1票	2.6%
	デジタルコレクション	http://dl.ndl.go.jp/	1票	2.6%
2位	Wikipedia	https://ja.wikipedia.org/	11票	37.8%
3位	Google	http://www.google.co.jp/	10票	25.6%
4位	絵本ナビ	http://www.ehonnavi.net/	7票	17.9%
5位	CiNii	http://ci.nii.ac.jp/	6票	15.3%

(39名 全票数 105票)

2 日頃の業務でよく使う参考図書・サイト、その理由 [「理由」の使用語彙の分析から]

名詞	名詞B	サ変名詞	形容動詞	副詞可能	動詞	動詞B	形容詞	副詞	副詞B
資料	58	5	62	25	32	62	229	61	5
情報	48	3	41	8	7	61	93	12	4
言葉	34	1	30	7	6	30	81	10	3
図書館	34	1	26	6	5	23	38	6	2
歴史	23	1	23	5	5	22	19	5	2
サイト	21	1	23	4	4	21	9	5	2
辞典	20	1	19	3	3	19	5	3	2
楽譜	16	1	18	3	3	15	5	3	2
事柄	15		17	3	2	13	4	2	1
事例	15		16	3	2	8	4	2	1
図書	15		16	3	2	8	4	2	1
事典	14		15	2	2	7	4	1	1
人物	12		14	2	1	6	4	1	1
地名	12		12	2	1	6	4	1	1
調べ	12		12	2	1	6	4	1	1
テーマ	11		11	2	1	5	3	1	1
データ	11		11	2	1	5	2	1	1
記事	11		11	2	1	5	2	1	1
郷土	10		10	2	1	4	2	1	1
子ども	10		9	2	1	4	2	1	1

「レファレンスツールの評価」(西尾恵一)

ここから、よく使う参考図書やサイトは

- ① 「手がかりが得られるもの」又は「調査の次のステップに進めるもの」
→それは「網羅的で情報量の豊富な参考図書やサイト」
- ② 書誌事項とその所在が得られるもの
- ③ 郷土関係の情報の載ったもの

○<参考>わたしが選んだレファレンスブック・ベスト10(2008)

第10回図書館総合展併設フォーラム 日外アソシエーツ特別企画アンケートによる。
図書館司書に対して日常よく使うレファレンスブック(「これがお奨め」という資料)10点を挙げて、短評をとったもの。活字媒体の資料に限定し、「分野別チェックリスト」に載った資料から選んでも、自由に書き込んでもOK

順位	書名	出版者	コメント	
1位	『国史大辞典』	吉川弘文館	参考文献が充実している。	3
2位	『日本国語大辞典』	小学館	あらゆる言葉が引ける。	1
3位	『大漢和辞典』	大修館書店	出典がわかる。漢字の点数が多い。	☆
4位	『日本大百科全書』	小学館	参考文献付。困った時、初動調査に。	☆
5位	『理科年表』	丸善	自然科学がトータルに記述。	5
6位	『角川日本地名大辞典』	角川書店	広く全国の地名がカバー。	☆
	『国書総目録』	岩波書店	近世以前に日本で刊行されたものがわかる。	
7位	『世界大百科事典』	平凡社	とっかかりが欲しいときに便利。	4
	『広辞苑』	岩波書店	1冊に掲載されている情報量が多い。	4
8位	『人物レファレンス事典』	日外アソシエーツ	自分が知らない人物のときに役立つ。	
9位	『日本統計年鑑』	日本統計協会	基礎統計資料がほとんど載っている。	☆
10位	『現代用語の基礎知識』	自由国民社	疑問に思ったらまずひける簡単さがよい。	☆

http://www.reference-net.jp/my_best10b.html

右端は課題での順位。☆は1票でも入っていた参考図書

2015年調査分は11月11日に図書館総合展で発表予定とのこと

http://www.nichigai.co.jp/lib_fair/forum2015.html

「レファレンスツールの評価」(西尾恵一)

○<参考>調査に使う/回答を可能としたレファレンスブック・ベスト20(2011)

間部豊・小田光宏「レファレンス質問への回答を可能にしたレファレンスブックの特性に関する研究」
『日本図書館情報学会誌』第187号(2011年)による

実際の調査によく使用されるレファレンスブック		回答を可能としたレファレンスブック	
1	国史大辞典	1	国史大辞典
2	日本大百科全書	2	日本大百科全書
3	日本国語大辞典	3	日本国語大辞典
4	国書総目録	4	岡山県歴史人物事典
5	J-BISC	5	角川日本地名大辞典
6	官報	6	古典籍総合目録
7	角川日本地名大辞典	7	世界大百科事典
8	古典籍総合目録	8	岡山県大百科事典
9	人物レファレンス事典	9	日本歴史地名大系
10	世界大百科事典	10	群書類従
11	広辞苑	11	国書総目録
12	大漢和辞典	12	官報
13	群書類従	13	中国学芸大事典
14	翻訳図書目録	14	日本古典文学大系
15	大宅壮一文庫雑誌記事索引(CD-ROM)	15	現代用語の基礎知識
16	日本歴史地名大系	16	日本古典文学大辞典
17	日経テレコン21	17	岡山県史
18	人物文献目録	17	人物レファレンス事典
19	中国学芸大事典	17	大漢和辞典
20	現代用語の基礎知識	20	広辞苑

! 日頃よく使うレファレンスツールがよいレファレンスツールであることを経験的に知っている

3 レファレンスツールの評価(長澤雅男・石黒祐子『情報源としてのレファレンスブック:新版』から)

評価に関わる三要素

- ① 製作に関わる要素: 編著者/出版者/出版年
- ② 内容に関わる要素: 範囲の設定/扱いかた/項目の選定/排列方法/検索手段/収録情報の信憑性
- ③ 形態に関わる要素: 印刷/挿図類/造本

4 レファレンスツールの限界

どこまでしか調べられないかを知ることも重要な「評価」

IV 意外な時に使えた参考図書およびインターネットサイト

意外な時に使えたレファレンスツール≠日頃の業務でよく使うレファレンスツールに

・意外な時に使えた参考図書(詳細は【参考資料3】)

『総合百科事典ポプラディア』3票→[よく使う]9票(2位)

『広辞苑』2票→[よく使う]7票(4位):別冊付録

『理科年表』2票→[よく使う]5票(5位)

「レファレンスツールの評価」(西尾恵一)

- ・意外な時に使えたインターネットサイト(詳細は【参考資料 4】)
 - 《国立国会図書館ホームページ》11 票→[よく使う]33 票(1 位)
 - 《Google》4 票→[よく使う]10 票(3 位):Google 翻訳・画像検索
 - 《絵本ナビ》2 票→[よく使う]9 票(4 位)

V 自己研鑽について

- ① レファレンスサービスはチームプレー
- ② チェックリストによる評価
- ③ 調査ガイドの作成

おわりに

- ① よい「レファレンスツール」とは、
 - ・日常業務の中でレファレンスを経験して研鑽を積んでいくもの
 - ・経験的によいレファレンスツールを選択している
 - ・基本的にはよく使うレファレンスツールがよいレファレンスツール
 - ・レファレンスツールの評価
 - ・レファレンスツールの限界を知ること
- ② レファレンスの際に工夫していることは、
 - ・Ⅳにおいて、他の図書館や図書館員がどのようなツールを使ってレファレンスサービスをしているか、エピソードを交えて報告
- ③ レファレンス力の向上につなげていく
 - ・レファレンス技術や能力アップ、活用技術に役立ててもらえたか？

【参考文献】

- 『実践型レファレンス・サービス入門(JLA 図書館実践シリーズ 1)』補訂版
(斎藤文男・藤村せつ子著 日本図書館協会 2014.5)
- 『情報源としてのレファレンスブックス:新版』(長澤雅男・石黒祐子/著 日本図書館協会 2004.5)
- 間部豊・小田光宏「レファレンス質問への回答を可能にしたレファレンスブックの特性に関する研究」
『日本図書館情報学会誌』第 187 号(日本図書館情報学会 2011)
- 『情報サービス論(JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ 5)』
(小田光宏/編著 日本図書館協会 2012.8)

レファレンスに関する参考になる図書については、【参考資料 5】を参照。